

# 回会報

151号

新日本美術協会

## 平成二十七年年度総会開催される

つゆの晴間となった六月二十八日、東京板橋のハライフプラザいたばし二階会議室に於いて、午後一時半新日本美術協会が開催された。出席者は例年より多く、北は北海道から、南は奈良県から出席者があつた。

総会は定期総会次第に従い進められ、総合司会者に富岡委員が指名され、森屋事務局長の開会の言葉と会長代行の挨拶のあと、故中尾会長へ黙とうをささげた。議長に増野委員が選出され、書記に宮嶋委員、議事録署名人に陳委員が指名され審議に入った。

審議に先立ち、議決要件の確認が行われ、議決有権者百九十人、に対し出席者三十四人、委任状九十三人で議決要件過半数九十六人を三十一人上回り成立した。

一号議案、二十六年事業報告を森屋事務局長が、収支決算報告並びに財産目録の報告を鈴木委員が監査報告を相築委員がそれぞれ行い承認された。

二号議案、二十七年事業計画案を森屋事務局長が収支予算案を鈴木委員が説明し、質疑応答の結果承認された。

三号議案、会則の一部を改正する件は委員会では審議済みで、総会が最終審議の場となつていたので質疑応答結果提案通り承認された。新規規約による新代表、事務局長選出するにあたり、先ず委員会の承認を必要とするため総会をいったん休憩とし、その間に委員会を開催。新代表に森屋委員、新事務局長に鈴木委員を選出し、その後再開の総会に於いて兩名がそれぞれ承認された。

議事は無事終了、事務報告として新会員と新任

事務局  
横浜市港南区港南台  
1-39-5  
鈴木忠義方  
TEL045-832-0504  
  
編集委員  
小高峯夫  
富岡ネム  
大石亨  
四方公子  
早田美智子  
  
原稿常時募集  
次号平成27年11月予定

### 新任委員紹介



東京都  
倉田遼一(工芸)

委員の紹介、栃木支部発足等の紹介が行われ閉会となった。

この度、新日美工芸部からの推薦をいただき、委員に任命いただきました、倉田遼一と申します。

私の作陶歴は二十数年になります。バブル全盛の頃外資半導体企業に勤務していて接待漬けの毎日、せめて土曜日には習い事をと、その時紹介されたのが陶芸教室でした。それまで全く陶芸が何かも知らず、土を触ったことすらありませんでした。そんな私が曲がりなりにも二十年以上陶芸を続けられたのは、自分でも不思議に思います。が、幸運にも、良き指導者にも恵まれたからではと思つています。

数年前に大病を患い第一線を退き、いまや陶芸は私の生活の一部のようなものになりましたが、まだまだ健康に不安もあり諸先輩の方々のような作品は作れず、日々挑戦と思ひ、取り組んでいくところです。

どんな形で会のお役にたてるか不安ですが、委員の皆様と共に、会の皆様が楽しく気持ち良く参加することが出来る会になるよう運営していくお手伝いをさせて頂ければと思つています。もちろん自分の作陶も今まで以上精進してまいります。

新日美の中で、工芸部門は絵画部門とは規模も作品点数も展示の方法も違います。それらを踏まえた上で、絵画・工芸ともますます素晴らしい会になるお手伝いをする所存です。



東京都  
西本英高(工芸)

この度、委員という責任ある役目をお受けすることになりました工芸部門(陶芸)に所属しております西本英高です。

思い起こせば、平成一九年に初めて新日美の公募に応募し、入選した切っ掛けが現在に続いております。

当時通い始めた陶芸教室の先輩方からの誘いがありました。「入選すれば一週間、東京都美術館に展示して貰える。これが合言葉であり、実に魅力的な誘いでした。(自分の未熟な腕前を顧みない暴挙であったのですが...)作陶は週末しか出来ない環境でありましたが、先輩方のアドバイスよろしく、部屋の天井が高い都美術館でも見栄えがする作品となりました。まずは成功であり、これが病み付きになったのです。

今後は、この魅力的な合言葉「入選すれば一週間、都美術館に展示して貰える」を一般の方に広め、我らの会員を増やしていきたいと考えております。また、会の運営にご苦労されておられる諸先輩方に少しでもお役に立てるよう、頑張りたいと思ひます。宜しくお願い致します。

### 委員コラム

#### 皮革工芸について

山崎昌子

皮にはいろいろな種類があります。牛、豚、山羊、羊、爬虫類等々「皮」は外表をおおう膜という意味で「革」は生皮になめしをほどこすことにより、加工しやすくしたものをいいます。

革は生活用品、バック、靴、装飾品と色々に使われておりますが皮革工芸にもちいる革にはいろいろな技法があります。ローケツ染め、タンポ染め、スタンピング、カービング、パッキング等があります。簡単にいえば染める、叩く、切る、膨らませるのです。

これらの一技法で、作品を仕上げることはありませんが、今回は私自身が作品を作るときにもちいる、カービングの一部と色について書いてみたいと思います。

カービングとは革の彫刻です。主に牛革を使いますが革は水分を加えることにより柔軟になります。水分を加えた革に描かれたデザインどおりにカットするのです。そのカットした部分にそつて工具で打ち込みます。一度カットした部分は消すことができません。柔らかくなった革は工具だけではなく釘、石、木や、金槌、などでも打ち込む力により繊細にも、大胆にも、また線の太さ、細さ、革のあつみによって凸凹ができるのです。

次は色です。革に色をつけるのは革専門の染料をつかいます。革にはもともと色があります。純白に仕上げられた革もありますが薄い色を何度も何度も重ねていきます。水分をふくんだ革は一筋縄ではいきません。一晩たつと乾いて薄くなりまた染料をいれて、とくりかえしが続きます。

人と同じ様に革にも毛穴があり、日焼けもします。革は生きています。焼けて地の色がでてそれがいい味になることを思い描きながら染料を使っています。革の可能性は限りありません。その可能性にどこまで挑戦できるか奮闘している毎日です。